教　育

教育成果の公開 ―卒業研究一覧―

本誌は、教育成果を公開する観点から、学部内での教育活動のうち学術研究に深く関連する部分、すなわち、卒業論文にかかわる情報をここに掲載する。なお、本学部では、優秀な学生を表彰し今後の活躍を期するため、平成13年度に学部長賞「優秀卒業論文賞」を設立した。本年度の審査結果も合わせて掲載する。

2019年度　本学部卒業研究一覧

― 国際学科

	テ　ー　マ
1	日本人とスキンシップ
2	グローバルな世界に向けて ～闘球から学べること～
3	スキー場の経営悪化の原因とその解決案について
4	黒人音楽が世界に与えた影響 ―アメリカにおける奴隷制度を中心に―
5	なぜ犯罪で稼ごうとするのか ～映画『ギャングース』からみる詐欺師とタタキ師の家庭環境と心理～
6	アジア・オセアニアにおける第二言語習得について ―言語教育・言語政策・社会環境を中心に―
7	映画予告編とポスターの日米比較
8	現代も生きるトンパ文字の仕組みと魅力
9	日本と中国における韓国サブカルチャーの展開
10	ビッグデータ活用の国際比較 ―日本・アメリカ・中国の事例から―
11	差別から見るアメリカ ―黒人・女性差別を中心に―
12	Vlog から見る韓国人の日常生活 ～女性オフィスワーカーと女子大生のライフスタイル～
13	世界ユネスコの世界遺産から見る中国の非物質文化遺産
14	タイ王国における経済発展の功罪
15	日本とアメリカの貧困 ～二つの国を比較して～
16	バスフィッシングから見るブラックバスとの付き合い方
17	死者の日 ～リメンバー・ミー～
18	大学部活動におけるリーダーシップ経験が女性のキャリア志向性に及ぼす影響 ―集団スポーツに焦点を当てて―
19	中国の覇権主義の研究
20	アメリカの大学の商業化
21	晩婚化問題
22	なぜインドに行くと人生感が変わるのか
23	世界に受け入れられた K-POP ―なぜ海外進出が可能か？―
24	テレビドラマ「恋はチーズ・イン・ザ・トラップ」にみる韓国の大学生活
25	中国料理の地域別進化 ―日本・韓国―
26	東海道新幹線システムの海外展開について
27	世界と繋がる日本の和紙 ―伝統的製法の紙に対する再評価―
28	難民支援の現状と新たな展開
29	Fate 作品から考える　現代の古代エジプトブームによって蘇ったラメセス2世
30	ガウディがもし日本に建築したら ～ガウディの思想から考える～
31	日本アニメ産業の成長と課題

32	トヨタの開業から海外進出までの道のり
33	オイスカ高校から見つめなおす現代教育
34	Developmental sociolinguistics:Child language in a social setting according to bilingual children
35	日本文化の基を探る ～「洗う」「並ぶ」を中心に～
36	映画『君の名は。』の音楽はどうして RADWIMPS がすべて担当したのか ―君の名は。の物語と野田洋次郎の思想から考える―
37	イギリスによる EU 離脱 (Brexit) と以後の貿易構想
38	アメリカ・日本 スターバックス比較論
39	ハト
40	日本の四輪モータースポーツが根付かない理由
41	信州伊那谷のイナゴの販売方法 ～実際の販売例と心理的要因からみる変遷とこれから～
42	日系自動車メーカーの中国進出 ―現在までの変遷と今後の展望― Transition to the present and future prospects of Japanese automaker's expansion in China
43	アイドルとファンとの関係性から見る時代的な行方
44	訪日中国人観光客の動向から考える、大垣市の観光施策 ～海外へ広がる俳句文化の流れにどう乗るか～
45	中国・韓国からの訪日観光と日本の魅力
46	東アジア各国の歴史的背景と結びつけながら、台湾の今を紐解く
47	拷問、刑罰、死刑制度
48	アフリカにおける平和維持の営み
49	国際退職移住に関しての考察
50	黒人差別の歴史と黒人音楽が社会に与えた影響
51	京都における観光についての課題
52	世界金融危機 ―原因と教訓
53	ワーク・ライフ・バランスと企業について
54	瀬戸焼の衰退と今後　赤津地域の焼物と品野地域の焼物から見る
55	日本の大学における留学生受け入れに関する研究 ―中部大学等を例にして―
56	茶道の歴史について ～茶道の成立と大成～
57	ヒスパニックとアメリカ社会の変化
58	光州民主化運動と地域葛藤の関係について
59	イスラム教とインドネシアの経済社会
60	日本に渡る韓国のカフェ文化とその特性
61	日韓の化粧文化と美意識の変化
62	カンヌ国際映画祭 ～賞を取った日本の作品について～
63	日本の女性のメイク ～時代とともに変わる美～
64	ファストファッションから考える ～ファッションとファッションビジネス～
65	若者の車離れについて　各年代のフラッグシップカーから考える
66	フィリピンと日本の貧困問題と比較
67	黒という表現 ～アレキサンダーマックイーンのデザインを借りて～
68	日本人が魅了されるフラメンコ
69	技能実習制度の現状と問題
70	なぜ韓国自動車が日本で走っていないのか？
71	中国市場における日韓化粧品メーカーの現状と今後

72 日本におけるｅスポーツの課題と将来性について
73 世界の宗教の歴史と文化 ～キリスト教・イスラム教・日本の宗教～
74 日本における野球の受容過程 ～平岡凞を中心に～
75 限界集落と東京一極集中
76 プロパガンダとは何か
77 茶馬古道におけるチベット仏教の影響力
78 笑いと涙の結婚式 ～「笑い学」で考える結婚式の在り方～
79 ディズニーリゾートにみるサービスの変化、ホスピタリティ
80 好きなことで生きていきたい
81 最近の日本における映画産業の推移
82 サッカーから見た人種差別問題
83 東京ディズニーリゾートの満足度 ～世界の人々が東京ディズニーリゾートに来る理由～
84 ネルソン・マンデラが後世に与えた影響
85 韓国のフィジカルトレーニングと美容　日韓の“美”の感覚の違い
86 幸せとは何か ―デンマークの文化「ヒュッゲ」を中心に―
87 日本のプロ野球とメジャーリーグの比較 ―投手を通して―
88 シャーロック・ホームズと名探偵コナン ―世紀末ロンドンと平成日本のヒーロー―
89 特色を持つ企業のリーダーシップと経営
90 これからの日中関係 ～文化の違いから生まれる良さ～
91 K-POP における“韓国らしさ”の変容 ～韓国の英語教育がもたらす影響から考える～
92 ホステスから見る感情労働
93 李氏朝鮮王朝の王様 ～太祖・世宗・燕山君～
94 サメと人間
95 大麻合法化
96 観光地「伊勢」における訪日中国人の動向
97 日本におけるファストファッションの現状と各ブランドの戦略
98 アフリカの教育用言語 ―日本人として多言語社会のボーダーを考える―
99 高校野球の歴史と経済
100 Sustainable Fashion（持続可能なファッション）
101 日本と欧米におけるホラー映画の違いとその象徴
102 ハリー・ポッターの愉しみ方 ～原作・映画・舞台表現の検討から～
103 観光産業における SNS の影響
104 雲南省麗江から見る少数民族と観光
105 ジブリ映画『トトロ』～人気でいられる理由～
106 スポーツとドーピング　スポーツと選手を守るために
107 コーヒーの危機 ～日本にも生まれたフェアトレードタウン～
108 人種差別と黒人の歴史
109 なぜ相撲は女人禁制なのか
110『山海経』概要とその研究意義
111 レンタルの歴史と在り方
112 日本での犬猫に対する殺処分の実態 ～日本と各国との差～

― 国際関係学科

テ　ー　マ
1　東京ディズニーリゾートの魅力 ～人材育成とマーケティング～
2　サッカーと人種差別 ～サッカー界における人種差別をなくすには～
3　貧困の現状と非正規雇用
4　フジモリ元大統領の批判に関する一考察
5　北朝鮮の政治と経済
6　アジアの人口増加と日本の人口問題
7　オーストラリアのライフスタイル移住について
8　北方領土問題の解決案 ～歴史的経緯と国の主張～

― 国際文化学科

テ　ー　マ
1　日本人女性における韓国ブームの発展 ～韓国カフェがもたらす魅力～
2　“ 美味しい ” ワインの香りと条件
3　世界と日本の移民について
4　染色文化と伊勢型紙 ―変容する文化のこれからを考察する―
5　ヴィクトリア朝オーストラリア建築におけるゴシック・リバイバル
6　赤ちゃんの理解

― 中国語中国関係学科

テ　ー　マ
1　日中韓友好化について ～風習を中心として～
2　テニスの歴史
3　プロ野球における地域密着型経営の効果

国際関係学部長賞「優秀卒業論文賞」審査結果（2019 年度）

2019 年度　国際関係学部長賞優秀卒業論文賞選考要領

１．賞の種類

(1) 最優秀論文賞：原則として１編

(2) 優秀論文賞　：原則として２編まで

(3) 国際政治経済部門賞・国際社会文化部門賞（以下、「部門賞」と表記）：選考委員会が授賞対象および授賞数を決定する。

２．審査委員会、事務局

審査委員会、事務局は下記のメンバーで構成する。

(1) 学部審査委員長

学部長

(2) 学部審査副委員長

副学部長、学部長補佐

(3) 審査委員

国際学科　６名　（「国際政治経済部門」、「国際社会文化部門」各３名）

(4) 事務局

学部事務室

３．エントリー

(1) 教員はゼミ所属学生の卒業論文を推薦できる。ただし、当該学生に卒論の要約（以下、サマリーと表記）を A4 用紙１枚（1000 字程度）にまとめるよう指導し、事務局に提出させなければならない。

(2) 学生は指導教員に相談する必要なく、自分の意思で応募できる。ただし、応募に際しては、サマリーを A4 用紙１枚（1000 字程度）にまとめて、事務局に提出しなければならない。

(3) 学生はエントリーの際、当該論文の審査を「国際政治経済部門」、「国際社会文化部門」のいずれに委ねるかを選択しなければならない。この選択は、エントリーする学生の学科所属に一切縛られることなく、卒業論文の内容も鑑み、自分の意思により行うことができる。

４．審査委員会の編成、第一次・第二次審査

(1) 審査委員は毎年 12 月の学科会議、教授会の議を経て決定される。

(2) 事務局は卒業論文提出締め切り後、各部門の審査委員に審査依頼を行う。

(3) 審査委員が止むを得ない事情により審査に参加できない場合、速やかに学部審査委員長と副委員長に報告し、判断を仰ぐ事とする。以降の措置については三者に一任されるものとする。

(4) 審査委員は、原則としてエントリーされた全ての自部門学生の審査を担当する。論文を読んだ結果を総合的に判定し、自らが審査したすべての論文に対して順位付けを行い、100 点満点で採

点(採点基準は(5)の通り)、各論文に対する簡単なコメント(評価すべき点、不足している点など)も書き添えた上で、所定の期日までに事務局に報告する。ただし、審査の公平を期すため、審査委員自身が指導した学生の論文があった場合、いずれの部門での審査であっても、当該論文の審査を学生が所属する学科の学科審査委員長に委ねるものとする。

(5) 論文の採点基準は以下の通りとする(一次・二次審査共通)

100 ～ 90 点：「学部を代表する優秀な卒業論文」として相応しいレベル

89 ～ 80 点：一般的に「優秀な卒業論文」と言いきれるレベル

79 点以下：「優秀な卒業論文」と言えるか疑義が残るレベル

なお、順位との整合性が担保されている限りにおいて、点数については各審査委員に一任される。

(6) 順位付けおよび採点については各審査委員の判断が最優先され、審査委員会構成員を含む他者からの干渉を一切受けない事とする。順位付けにあたっては、審査委員自らの研究・教育経験に基づいた主観に基づき、もっとも優れた論文を1位とした後、2位以下の順位付けを行う。順位および点数については、選考委員会における審査の重要な根拠となるため、たとえ僅差であっても、同位・同点にはせず、必ず差異化をはかることとする。

(7) 各審査委員からの順位付け・採点結果を受け、原則、「各部門における順位の総和の平均値が最も低い論文」を当該部門の最上位の論文とする。しかしながら、(4) ただし書き以降の論文が発生した場合も踏まえ、採点結果の平均値も算出し、部門内最上位確定の判断材料とする。事務局は本作業の際に疑義が生じた場合、速やかに学部審査委員長と副委員長に報告し、本件に関する判断を三者に一任する。

(8) (7) により確定した各部門の最上位の論文1編を最優秀論文賞の候補、2位以下を優秀論文賞または部門賞の候補とする。以上を一次審査とする。

(9) 学部審査委員長、副委員長、審査委員の計9名は最優秀論文賞候補2編の論文を読んだ結果を総合的に判定し、いずれを最優秀論文にするべきかの自らの判断を下した後、100点満点で採点(採点基準は(5)の通り)、各論文に対する簡単なコメント(評価すべき点、不足している点など)も書き添えた上で、所定の期日までに事務局に報告する。ただし、審査の公平を期すため、上記9名が指導した学生の論文があった場合は、当該論文の審査を学生が提出した同部門の他の審査委員に委ねるものとする。なお、各審査委員がすでに第一次審査にて審査した論文は必ずしも再度読む必要はなく(コメントも省略)、もう一方の論文を読んだ上で、双方の順位付け(必要に応じて点数の変更)、第二次審査で初めて読んだ論文に対してコメントを行う。

(10) 各審査委員からの順位付け・採点結果を受け、原則、機械的に「各部門における順位の総和の平均値が最も低い論文」を最優秀論文とする。しかしながら、(9) ただし書き以降の論文が発生した場合は採点結果の平均値も算出し、これも最優秀論文確定のための判断材料とする。事務局は本作業の際に疑義が生じた場合、速やかに学部審査委員長と副委員長に報告し、本件に関する判断を三者に一任する。

(11) (10) により最優秀論文賞1編が決定され、もう一方の論文は優秀論文賞となる。以上を二次審査とする。

5．選考委員会

審査委員長は二次審査終了後、副委員長、審査委員を招集し、選考委員会を開催する。選考委員会は特段の事情無き限り、2月末に卒業判定審議のために開催される教授会と同日の開催とする。選考委員会にて確認・協議・決定する項目は以下の通り。

(1) 第一次・第二次審査の経緯確認

(2)「最優秀論文賞」と「優秀論文賞」1編の確定：第二次審査の結果確認

(3) 上記以外の「優秀論文賞」の有無確認と決定：第一次審査において2位以下となった論文の中で、授賞するに相応しい論文があれば、出席者の協議・確認の後、「優秀論文賞」として選出する。授賞するに相応しい論文が無い場合、当年度の優秀論文賞は上記(2)の1編とする。この段階で選出するのは原則1編とするが、第一次審査担当者の意見も踏まえ、審査委員長の判断により、2編以上の選出も可能とする。

(4)「部門賞」の決定：(3)において「優秀論文賞」とならなかった論文は、原則すべて「部門賞」の対象となり得るが、最終的には第一次審査担当者の意見も踏まえ、審査委員長の判断により、授賞対象および授賞数を決定する。賞の名称は第一次審査の部門名に準じ、「国際政治経済部門賞」・「国際社会文化部門賞」のいずれかとする。

(5) 最優秀論文賞、優秀論文賞の講評担当者の決定

(6) 審査全般に関する講評担当者の決定(部門別・計2名)

(7) 部門賞の講評担当者の決定：ただし、部門賞の授賞数が多数である場合や、担当者選出が困難な場合は、審査委員長の判断により、部門賞の講評を省略することができる。

6．学部内への報告

審査委員長は審査委員会の決定事項を取りまとめ、3月の教授会(2回開催される場合、進級判定・追加卒業判定審議のために開催される前半の教授会)で報告する。

7．本人への通知・発表

学位記授与式当日、国際関係学部長からの表彰をもって発表とする。なお該当者が当日欠席の場合でも、受賞の取り消しは行わない。

8．表彰式および講評の公開

(1) 国際関係学部長から、最優秀論文賞、優秀論文賞、部門賞の順に報告、賞状と記念品の授与を行う。

(2) 講評の読み上げは、最優秀論文賞、優秀論文賞までとする。ただし、学部長の学位記授与式当日のスケジュールに応じて、省略するか、副学部長または学部長補佐に委任することができる。部門賞については、講評がある場合でも読み上げについては省略する。

(3) 審査全般に関する講評については、学位記授与式当日の読み上げは行わず、国際関係学部ホームページへの掲載により公開する。

2019年度「優秀卒業論文賞」審査結果

◆候補論文は16件。その内訳は、国際政治経済部門は2件、国際社会文化部門は14件。一次審査の後、学部審査委員長、副委員長も加わる二次審査を経て、2020年2月28日の学部審査委員会において、下記のとおり最優秀論文賞1件、優秀論文賞1件、部門賞2件が選考され、教授会において承認された。

◆審査委員会の構成員は以下の通りである。

学部審査委員長：太田　明徳(学部長)
学部審査副委員長：高　英求(副学部長)
学部審査副委員長：澁谷　鎮明(学部長補佐)

国際政治経済部門審査委員：羽後　静子、加々美　康彦、大澤　肇
国際社会文化部門審査委員：于　小薇、河内　信幸、平井　芽阿里

最優秀論文賞：
「日本の大学における留学生受け入れに関する研究 ―中部大学等を例にして―」

優秀論文賞：
「日系自動車メーカーの中国進出 ―現在までの変遷と今後の展望―
Transition to the present and future prospects of Japanese automaker's expansion in China」

部門賞：
＜国際政治経済部門賞＞
「東海道新幹線システムの海外展開について」

＜国際社会文化部門賞＞
「アフリカの教育用言語 ―日本人として多言語社会のボーダーを考える―」

（文責：学部事務室　園田　智子）